

プロレタリア通信

66号

2016年
4月15日

発行人 共産主義者同盟プロレタリア通信編集委員会
発行所 豊島文化社 〒171-0003
東京都豊島区目黒2-18-15 目黒コンド101
TEL&FAX 03-6328-9457
郵便振替口座 0011010173588
年間購読 発送費込 1000円 一部 200円

戦争法を廃案へ 東アジア人民との連帯

安倍政権を打倒せよ

北村 裕

1 今年度の課題

昨年より今年にかけて、安倍政権は「戦争国家化」への道を突き進んでいる。改憲は行わないまま、一昨年7月1日の閣議決定で「集団的自衛権」の行使を容認し、昨年通常国会において、11の法案を2つに束ね多くの疑義を残したまま、9月19日「戦争法案」を強行的に成立させた。この「戦争法案」の強行採決により、日本が海外へ派兵できる法制化をしたのである。しかし「戦争法案」は成立したが、安倍政権が国民の多数から支持されているわけでは決していない。連日多くの人たちが国会に詰めかけ、法案を強行的に通そうとする安倍政

権にノーを突きつける運動を作り上げ、さながら60年安保、70年安保に続く安保闘争を世代を超えて闘い抜いたのである。

そればかりではない。福島汚染水の処理もいまだ有効な手を打つことなく、周辺住民に甲状腺がんなどの健康被害が明らかになつているにもかかわらず、その保障も真摯に取り組まないまま、あたかも事後処理は終わったかのようなことを宣言してきており、その上原発の再稼働を始めるとして、原発の海外への輸出を公然と行おうとしている。実際川内原発に引き続き、高浜原発3、4号機の再稼働も強行している。しかし、3月9日大津地裁は、運転差し止めの仮処分決定を行

い、関電側の説明の不十分さを指摘して、稼働中の原発を中止せよという画期的な判決を出している。

多くの民衆は、経産省前のテントと共に、首相官邸前の抗議行動をはじめ、全国の原発立地の場所でも、今も絶えることなく反対運動を続けて、脱原発の意思を表明し続けている。

沖縄においても、一昨年以來辺野古新基地建設を巡り攻防が繰り返されてきている。昨年11月、民衆の総意により翁長新知事を誕生させ、政府との対決姿勢を鮮明にして、沖縄は新たな段階を迎えた。とりわけ、安倍政権の戦争国家化の最前線に立ち、辺野古新基地建設を阻止する実力闘争が連日闘われている。

安倍政権の狙う戦争国家化は、今回の「戦争立法」をはじめとして、沖縄辺野古新基地建設、オスプレイ配備など自衛隊の米軍と一体となった攻撃の体制、川内原発の再稼働をはじめとする原発再稼働など戦争国家体制整備を進めてきている。その上、これらと一体となった治安管理体制も着々と進められてきている現状にある。

「この法律は、必要を観察及び指導を行うことによつて、その病状の改善及びこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、もつてその社会復帰を促進することを目的とする」とされて、そのために、指定入院機関、通院機関において「強制医療」が課されることになった。このように精神障害者だけが対象となり、「手厚い医療」を受けることになったが、「再犯予測」は、医学的判断として行い得ないにもかかわらず掲げられており、これは社会防衛のための保安処分といえる。

2 進む治安管理体制の強化

このような安倍政権の戦争国家体制に向けた動きは、同時に治安管理体制の強化をもたらすものでもある。すでに障害者に対しては、保安処分制度が実施されている。

2001年6月に大阪の池田小学校で、児童に対する無差別殺傷事件が起きたのをきっかけに、「心神喪失者等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」案を2002年3月に閣議決定し、2003年には与党の強行採決により成立した。この法律は2005年7月より施行され

ている。「この法律は、必要を観察及び指導を行うことによつて、その病状の改善及びこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、もつてその社会復帰を促進することを目的とする」とされて、そのために、指定入院機関、通院機関において「強制医療」が課されることになった。このように精神障害者だけが対象となり、「手厚い医療」を受けることになったが、「再犯予測」は、医学的判断として行い得ないにもかかわらず掲げられており、これは社会防衛のための保安処分といえる。こればかりではない。保護観察を利用した保安処分制度も着々と作られてきている。少年法の一部改正によつて少年に対する保護処分が、保安処分化されているし、2007年には、「更生保護法」により「保護観察における指導監督の強化と不良措置・良好措置の積極化」が図られ、また2013年に刑法等の一部改正する法律および薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部執行猶予に関

する法律の制定がなされた。また、社会貢献活動を義務づけ、規制薬物等への依存があるものに対する保護観察の特則も定められてきた。

このように施設内での保安処分と保護観察を利用した社会内での保安処分が強化されており、社会自体が保安処分施設化され、同時に社会自体が保安処分の担い手となっている。

ところで、障害者は生活保護や介護などの福祉サービスを受けており、彼らの個人情報はいっしょに国家に把握されている。これに加えて、「マインバー法」が成立した現在、この個人情報把握はすべての国民に拡大されようとしている。こればかりではなく、我々は共謀罪新設や、盗聴法の対象拡大を許さない闘いを作り上げていかなければ

3 東アジア人民との連帯

昨年11月に、パリで発生した同時多発テロ事件を受けて、アメリカ、フランス、ロシア等の帝国主義諸国によるシリア空爆が無差別に行われてきている。しかも安倍政権はこの機会をとらえて、「緊急事態条項」の創設を念頭

に、改憲に突き進もうとしている。自民党の「日本国憲法改正草案」(2012年)には、「緊急事態条項」を定めた章がある。

また、この5月26、27日には、「G7伊勢志摩サミット」が行われようとしている。ここには、アメリカをはじめとする帝国主義諸国7か国が集まって、「対テロ戦争」や「新自由主義政策」を合議す

る場で、ここで安倍政権はその一翼を担おうとしている。このようなサミットを媒介に一層「戦争法」を具体化し、治安弾圧を推し進めようとしている安倍政権に、我々は反撃していかなければならない。折しもこの3月から4月には、過去最大規模の米韓軍事演習が行われており、朝鮮半島への戦争挑発を狙うものであり、このような策動には

反対していかなければならない。我々はこのような安倍政権の策動を許さず、沖縄辺野古の米軍新基地建設に対する反対運動と連帯し、韓国をはじめとする闘う労働者、人民との交流を作りながら、新たな運動の形成が問われている。東アジアの人民との団結を早急に作り上げていかなければならない。共に闘おう。

「第三滑走路計画」を撤回させよう!

小山明

本年一月の年頭所感において成田国際空港会社(NAA)の夏目社長は空港機能の強化について「騒音化の住民に丁寧な説明を行い、理解と協力を得ることを忘れてはならない」と表明し、第三滑走路の推進について「四者協議会での議論が重大な局面を迎えた。空港間競争が激化する中、成田の最重要の戦略となる」と協調した。

域連絡協議会会長」の「騒音地域の住民には第三滑走路の説明がまったくされておらず、①機能強化については、空港会社が地域に約束してきた事項についての履行の協議が前提である。②騒音下の環境対策をしっかりと示し、空港機能の強化がどのような影響をあたえるのか、また、どのような対策を行うのか、とりわけ離着陸制限(カーフェュー)時間帯の緩和については「なしくずしにならないよう厳守する」という約束が

ありながら四者協議会で議論すること自体不謹慎きわまりない、③空港の機能強化に関する議論はこれまで結論ありきで勧められ、地域住民に多大の不信感を与えてきた、カーフェュー時間の緩和があったかも決まったかのような新聞報道も同様」との発言を、事実上黙殺する物である。(騒音対策協議会は「成田空港の機能強化そのものに反対して」はいない、という立場であるがさすがに頭にきた事だらう)

結局のところ、本年三月二十九日の四者協議会においては「確認事項」として「第三滑走路、B滑走路の延伸の検討とともに夜間飛行制限の見直しについても環境対策と併せて慎重に検討」と言う形において明記される事態となった。

明らかである。二千十五年夏よりWAN(管制機能の高度化に必要な監視装置)の設置による同時並行離発着の実行で、従来時間あたり六十四回から六十八回と離発着回数を増加、さらに当面空港外の土地拡張なしに進められる「高速離脱誘導路」をA・B滑走路に整備を進める方向で、そのことにより七十二回に時間値を増加(空港処理能力は約四万回増)させるとしている。

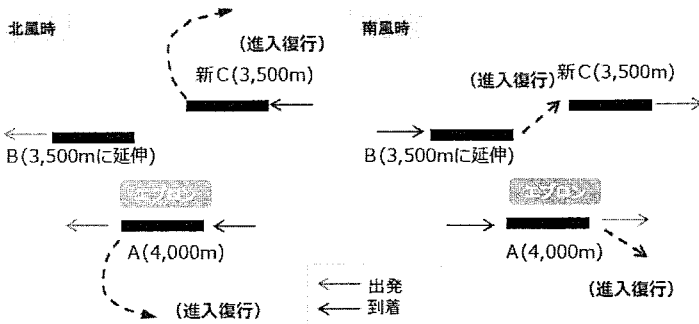
図3は日本政府観光局による年別訪日外客数・出国日本人数の推移データをグラフ化した物である。昨年の実績では一九七三万七千人というのほぼ二千万人の大台に乗ったと言つてよいだろう。結局のところ、安倍政権下での為替操作による円安・労働賃金低下・労働権剥奪へ向けた非正規化増進の結果が外客数の増加という形を取つて現れたという事である。

検討されている第三滑走路と現状でもっとも有力とされている案は一昨年の七月八日に発表された首都圏空港機能強化技術検討小委員会の中取りまとめに記載されている「案二」(図1)で、具体的な位置関係では以下に掲載する東京新聞の十一月二十八日記事上「案①」(図2)である。

いずれにしても、B滑走路の千m北側延伸とセットである。地域住民の生活環境をさらに圧迫する物であることは

為替操作による円安・労働賃金の低下による輸出促進と資本蓄積・資本輸出の増進、富裕層拡大と(今では見向きもされなくなつた)トリクルダ

案2：案1の地上走行距離を短縮する観点から風向きによる運用方法を工夫する為、新C滑走路の位置を南側へずらす案（ゼオパノラル）



運用方法

北風時)A:出発・到着混合 B:出発専用 新C:到着専用
南風時)A:出発・到着混合 B:到着専用 新C:出発専用

※新C滑走路については、南風時に、B滑走路到着機の進入復行区域が新C滑走路に抵触しない位置に配置。

効果

暫定時間値 98回
空港処理能力拡大効果 約16万回

※時間値は、管制機能の高度化、高速離脱誘導路の整備の効果を加味、ただし、飛行経路の制約を加味せず滑走路上の交通のみを考慮して算出した試算値であり、今後精査が必要。
※案1よりも地上走行距離が短縮され、地上走行に要する時間も短縮される。

工事費(用地取得及び滑走路・誘導路の整備に要する費用)

約1,000~1,200億円

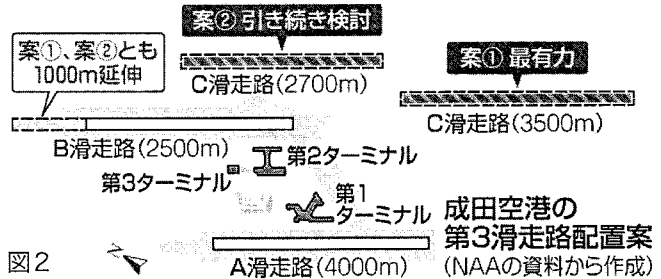
※エプロン、ターミナルビル、アクセス施設等の整備費及び環境対策費を含まない。

工事期間

3~4年程度

※地域との合意、用地交渉、環境アセスメントに必要な期間を除く。

図1



ウン理論による景気浮揚論である。いわゆる戦争法(平和安全法整備法と国際平和支援法)施行による剥き出しの海外侵略と、これらの施策は一体の物であり、近年における観光客誘致・外客数増大は一体の物である。

金融政策しか打つ手もない安倍政権は国内における循環構造を作りだし得ないために観光客の誘致をその景気浮揚策として称揚せざるを得なくなっているが、外部の経済に依存しての経済の延命は

さらにこの国の経済基盤を脆弱な物とせざるを得ない。

農業で食える社会の建設を第三滑走路建設に必要とされる土地面積は百二十七ヘクタール、さらに貨物施設や給油施設などの付帯設備も含めると現状の成田空港の敷地面積約千四百ヘクタール。これを二千ヘクタールに拡大する。成田の場合、野菜農家が主となるため平均耕作面積は一ヘクタールくらい、増大す

る六百ヘクタールの半分の敷地が農業で生活が成り立つているとすればおよそ三百家族の農家が農業から剥奪される。農業を含めた内国循環こそが国家の経済の安定化と労働者市民の生活安定の基礎をなす物である。TPP、戦争法、労働者階級の窮乏化と訪日外客数の増大は一体の物であり、我々はこれらの政策に断固として反対していかなくてはならない。

福島原発事故から5年、チェルノブイリ原発事故から30年

被災者の思いを受け止めよう

報告：チェルノブイリ原発事故から30年一現状と課題
伴 英幸さん(原子力資料情報室共同代表)

講演：福島原発事故の被災者から
伊藤延由さん(飯沼村・農業者)

2016年4月24日

開場13:00 開演13:30 デモ出発15:45

千駄ヶ谷区民会館

東京都渋谷区神宮前1-1-10 TEL.03-3402-7854

JR山手線「原宿駅」徒歩10分

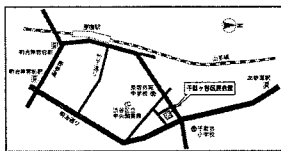
東京メトロ千代田線「副都心線」明治神宮前駅「徒歩8分

東京メトロ副都心線「北参道駅」徒歩8分

資料代:800円

主催：原発とめよう！東京ネットワーク

〒162-0065 東京都新宿区住吉町B-5 暖機コート2階B 原子力資料情報室 共同代表 TEL.03-3357-3800



草の根右翼は国境を越えて世界にはびこる!?

4・23 トーク&討論

～トランプ! 仏国民戦線! 独ベギーター...そして日本会議!～

提起▶ 鶴飼 哲さん / 辻子 実さん

4月23日(土) 17:45開場 18:00開始

場所 豊島区民センター 4階 第3~5会議室

アクセス▶各線池袋駅東口より徒歩5分 (豊島区東池袋1-20-10)

資料代 500円

主催:差別・排外主義に反対する連絡会

<http://noracismnodiscrimination.blogspot.jp/>

横堀現闘本部破壊裁判不当判決 加瀬勉談話と反対同盟声明

加瀬勉 談話

反対同盟を「権利能力なき社団」と認定し、空港会社の「職権乱用」を全面的に認め、今回の東京高裁の不当判決に断固抗議する。我々はただちに最高裁に上告し最後まで闘うことを表明する。

三里塚大地共有委員会代表 加瀬勉

反対同盟声明

東京高裁の横堀現闘本部破壊を迫認する不当判決を弾劾する

2月3日、東京高裁判事12部(杉原則彦裁判長)は反対同盟に横堀現闘本部の建物の撤去を求める成田国際空港株式会社(以下「成田空社」)の主張を認め、一審千葉地裁の判決に不当として控訴した反対同盟に対して控訴棄却の決定を言い渡した。

空港会社は別の訴訟で土地のすべてを取得したとして、建物の撤去と土地の明け渡しを求めて提訴した。空港会社は誘導路用地

内にある建物が「朽廃」

し、空港運用上妨げになるとして反対同盟に撤去を求めた。しかし、建物が「朽廃」した原因を作り出したのは空港会社である。2006年、突然現闘本部に至る道路を一方的にバリケード封鎖し、所有者の往来、管理を不可能にした。空港会社は裁判で「1998年1月の旗開き以降一切使用していない」と事実を反するでっち上げの主張を行った。反対同盟は証拠を挙げてこれに反論したが、一審千葉地裁はこれを無視、高裁判決もこれに触れることはなかった。

また、反対同盟は裁判に提訴して強制的手段によって事を進めることは成田空港シンポジウム(1991年)、円卓会議(1993年)での「平行滑走路の整備においては、あらゆる意味で強制的手段が用いられるはならず、あくまでも話し合いにより解決する」という信義則に反すると主張

した。高裁は「円卓会議での合意において、あらゆる意味での強制的手段が用いられるはならないことが明示的に確認されたのは、平行滑走路のための用地の取得についてであること、また少なくともそれ以外の用地の取得についても、純粹に民事上の紛争について民事訴訟の手続きによる解決を求めることを排除するものでないことは現判決のとおりである。」と三里塚闘争の歴史性から切り離し、切り縮める判断を下した。

した。

さらに高裁は、「なお、仮に上記合意が民事裁判をしないことも含むものであったとしても少なくとも話し合いによる解決を目指す合理的な努力を相当期間にわたって継続しても、なお解決に至らない場合には、民事裁判による解決を求めることが許される」と念を押し、また、「円卓会議での合意から長期間が経過

し、その前後を通じて被控訴人(空港会社)や国が、話し合いその他の方法による解決の努力を続けてきたことに照らせば、民事裁判による解決を求めることも許されると解すべきである。」として空港会社を擁護した。これは高裁が時間が経てば円卓会議の合意は時効であると言ったに等しい。また、「解決の努力を続けてきたことに照らせば」とは、どんな一方的で相手に取って受け入れ難い要求であっても、既成事実をアリバイ的に積み重ねれば「努力」したとして容認されるべきである、とも言っているのだ。

こんな空港会社擁護一辺倒の判決を断じて認めることは出来ない。裁判所は歴史的に成田空港問題の当初以来、空港公団の時代から空港会社の主張を全面的に追認して来た。反対同盟はかかる不当な判決に断固抗議し、最高裁に上告して最後まで闘い抜く決意である。

2016年2月13日
三里塚芝山連合空港反対同盟(代表世話人 柳川秀夫)

共産主義者協議会
プロレタリア(無産社)の共同政治新聞
『赤いプロレタリア』

『共産主義運動年誌』
第16号 2015年
好評発売中

エム企画印刷
〒112-0005 文京区水道1-5-20
Tel. 03-3291-8191
Fax. 03-3294-8777
m-kikaku@gf7.so-net.ne.jp

豊島文化社 住所変わりました
〒171-0031 東京都豊島区目白2-18-15 目白コンコルド101
TEL&FAX 03-6328-9457

韓国訪問記(2)

佐藤保

夕食を食べた後、韓国側が

域を訪問した。

《民主労総との交流会》

どうしても見せたい所があるというので車で案内してもらった。そこは最近、出来た「セントラル・パーク」であった。自慢するだけの事はあつて風光明媚な所であつた。モーターボート、彫刻、庭園、水上タクシーなど整備されており、若い人にはデパートスポットであり、家族連れにはピクニックの場となつてゐるとの事であつた。私には、途中、出合った巨大なビル群の方により興味が湧いた。それは急に目の前に現われ、どこまでも続いていたのであつた。一週間後にNHK・BSで「仁川」特集をやつていたので、それによると、ここは経済特区で欧米の資本を呼び寄せ、経済発展を願つてゐるとの事であつた。ところで、誰がどの位の家賃で上の方の階に住んでゐるのだらう、と皆が想像し合つたが、見当がつかなかつた。

日本において、民主党が自民党に代わる政党として一時、政権を担つたが、真の信念がなく、官僚にまるめ込まれて、民衆の信頼を失つてゐる現状であるが、韓国においてもミニ政党の離合集散が激しく、一時、まともな政党として信頼を集めた『民主労働党』であつたが、その後、議会議長の会務室であるが、運動の中で亡くなつた方を追慕する場でもある」との事である。100面以上の写真が貼られていた。私の眼に止まつたのは、その中のいくつかに写真ではなく、花が一輪描かれた写真があつた事であつた。本来なら写真が飾られるべきであつたが、ふさわしい写真を残せなかつた人の替わりに飾られたものであらう。合掌！

両者の意見交流は多方面に渡つたが、日韓両民衆の直面している問題には共通のものが多くという事であつた。

①民衆が信頼できる真の政党が存在しないこと

②両国の労働者ともブルジョア政府の新経済政策により実質賃金は下げられ続け、社会保障も切り下げられ続け、中間層も窮乏化し日々の生活を持続していくのが精一杯となつてゐる階層が増してゐる。その為、昔だつたら親の仕送りで何とかやつていた多くの学生が奨学金なしでは学生生活をやつていけないなり、卒業するまでには幾百万の借金を抱えて社会に出ていく事になり、社会に眼を向けて行動していく事が少なくなり、学生運動の低迷をもたら

せている。このような状況を打破する為、民主労総においては、財閥が貯め込んだ内部留保金(71兆円以上)を社会に還元させる為、近々、闘争本部を立ち上げるとの事であつた。

初めは少数であつてもよい。互いの意見を交換する中で、自然と社会に眼を向けていなくては共通の課題を解決していくことはできないと考えていくだろうからである。

午後一年一回開かれるという労働者文化祭に参加した。この日は生憎、移動性低気圧の為に一日中、雨にたたられた。四百席超の会館であつたが、参加者は百人位であつたらうか。それでも労働者はすこぶる元気で、練習の成果を披露してゐた。我々も連帯の歌を歌うように要請されてゐるといふので、ちよつと緊張したが、歌や踊りを披露する団体が多かつた事と労働文化祭の始まりが30分遅れてしまつたので、時間がなくなつた。民主労総では日々の闘争と共に労働者自身が自らの文化を生み出し、育てていくという事を非常に重視してゐるといふ事であつた。

《ローカル放送局のインタビュー》

「日本から訪問団が来ているのならば是非インタビューさせてほしい——こういう依頼が地元放送局からあつたということで、急遽そちらに向かつた。案内された所は昨日、とりの唐揚げを食べた同じ市場の一角にある小さな飲食店であつた。すでに放送局員と通訳の女性が待つてゐた。彼らが知りたい事は安倍政権の事であつた。——また、アジア侵略を企んでゐるのではないか。我々の説明は次の様であつた。①安倍の様な流れは戦後一貫してあり、安倍の祖父の岸信介が代表であり、二人目が「戦後政治の総決算」を掲げてレーガン政権との蜜月時代を演出した中曽根康弘であり、三人目が安倍である。②この流れが戦後長らく多数派となりえなかつたのは第二次大戦で悲惨な犠牲を強いられた日本人民が憲法9条を堅持し、会場の動きを打ち砕いてきた為である。③それがサッチャー、レーガン時代から推進されてきた「小さな政府」政策によつて賃下げ、社会保障政策の縮小などによつて「中間層」が没落し、小泉政権時代の「既成勢力」による既得権益「攻撃」によつて人民同士が傷付け合う風潮によつて排外主義、自主憲法制定、日の丸・君が代の強制などの右翼的風潮が吹き荒れるようになって現在に至る。この傾向は米帝のアジアでの影響力の減少↓日本軍国主義の拡張によつて米日の利害は当面一致しており、アジア人民同士の連帯が重要であ

特集Ⅱ

特集 前文

佐藤秋雄

る。

《吸引力が弱い韓国のトイレ》
 全部がそうではないのであるが、トイレを利用する場合、気をつける事はトイレに入つて目の前に汚物入れ(大きいもの)があるかどうかを確認する事である。小さいのしかなければそれは女性用のなので大丈夫。私の経験によると目の前に大きい入れ物があった。ちよつと古びたビルなどは全て、そうだし民主労総のといれもそうだった。日本においてもインフラ設備は50

年前の東京オリンピックの時であり、橋、高速道路、トンネル、水道管などが危ないの特集が組まれている通りである。韓国においては尚更、65年の日韓条約による賠償金で工業化をめざして超特急で建設してきたので、インフラに

金をかけてやるうという余裕がまだないというのが実情であろう。我々の団体でも去年、トイレをつまらせて苦労したそうである。

《コーヒーミックス》
 日本へのおみやげに何を

買ったらいいか迷ったので通訳をやつた人に聞いたら「それならコーヒーミックスがいいでしょう」と言われたのでそれを購入した。それは確かにどこにも置いてあつて、民主労総でも日本茶、紅茶と共にあつたし飲食店でも精算レ

ジの横に置いてあつた。民宿でも食前に出て来た。それほどポピュラーな飲物である。帰つて来て近くのスーパーに行つて探したらすぐ見つかった。日韓ともアメリカナイズされている証である。

か」との事であつた。

1部神田校舎での雄弁会の部室はすでに昼の時間潰しの場になつていた。

全共闘運動の総括主体とはなりえなくとも2部の活動家が使うのであれば結構な事として受け止めた。OKとした。



「妙美の東京時代を知りたい」と、12月10日胸像除幕式の後、食事で幾人かの方々から話題となつた。

帰京後、幾人かに声をかけた。しかし、他大学生や同時代の運動仲間から文章を集めることがかなわなかつた。

専大生数名からであつた。また『プロレタリア通信』前号・65号を読んで追悼文を関根浩、佐次田敬子両名からいただいた。

1970年代初頭の時代背景と合せて専大学生運動が少しは垣間見ることができ

あろうか。この想い出と沖日労時代の金城あゆみこと、嶺井妙美の活動のあり様、その容姿が少しは2名の追悼文によつて偲ばれるのである。

読者諸兄弟におかれましては『プロレタリア通信』前号・65号「嶺井妙美追悼特集」共々一読お願いしたい。

私がふたたび特集と銘打つたのは、12月10日除幕式後の話題に触発されたことは勿論、嶺井妙美は生涯を賭して活動したのは、反天皇制であり、反ヤマトである。従つて北米帝国軍隊はもとより、日帝の侵略、自衛隊の進駐断乎阻止である。ここに彼女はいち早く1983年の「6・23日の丸行進」反対の抗議行動

を始めた。

私は、この独立心、自主自立の精神こそ尊いものであると。

金城あゆみこと、嶺井妙美は、だれに媚びるでもなく、借り物の思想や理論でもなく、その土地で生れ育ち、培われた精神そのままに沖縄・琉球の独立を自然と、気負う

ことなく自然に主張した。ここに、彼女がかもし出す雰囲気、人々を引き付ける魅力があつたのだ。

私は、彼女を通して、沖縄琉球を知つたと言つて過言ではない。ここに、改めて彼女を偲ぶとともに追悼の意を現わしたい。

2016年4月10日

【嶺井 妙美さんの思い出】

●2部活との出会い

1970年か71年だと思ふ。労学評の菅野さんから連絡が入つた。(菅野氏は現在山形で農業を営みPPP反対で旺盛に活躍している)。

「専大神田校舎の雄弁会の部室を夜間貸してくれないか」と云う事だつた。

私は「専大全共闘運動の地平の防衛が条件」で「部室貸出は承認する」と答えた。

菅野氏は「実は自分たちは今まで全自連で全共闘運動は行つていない。答える主体ではない」との回答であつた。菅野氏は「2部は今、70年安保闘争後、一般的に学生運動はなく、学費闘争も民青系自治会なので大衆的取組みも目立つた運動も無い、2部活は独自に学費反対を訴えた。再考して部室を使わせてくれない

●1971年 嶺井妙美さんの思い出

嶺井妙美さんは専大2部活動者会議の中心的メンバーでした。そしてこの2部活動者会議(以下2部活)は1部(全日制)生田キャンパス)の生協設立準備会の人たちと共に神田キャンパスで「専大に生協を」を合言葉に旺盛に活動を行いました。

こんなエピソードがあります。

当時専大2部(II夜間部)の党派的ヘゲモニーは民青系自治会でした。彼らは2部単独で生協を創ると言い張つていました。彼らの主張は2部活メンバーに対抗するだけの

か」との事であつた。

1部神田校舎での雄弁会の部室はすでに昼の時間潰しの場になつていた。

全共闘運動の総括主体とはなりえなくとも2部の活動家が使うのであれば結構な事として受け止めた。OKとした。

1971年 嶺井妙美さんの思い出

嶺井妙美さんは専大2部活動者会議の中心的メンバーでした。そしてこの2部活動者会議(以下2部活)は1部(全日制)生田キャンパス)の生協設立準備会の人たちと共に神田キャンパスで「専大に生協を」を合言葉に旺盛に活動を行いました。

こんなエピソードがあります。

当時専大2部(II夜間部)の党派的ヘゲモニーは民青系自治会でした。彼らは2部単独で生協を創ると言い張つていました。彼らの主張は2部活メンバーに対抗するだけの

とつてつけた様なセクト的不合理的な主張でした。聞くところよれば「東大生協」で働いている人が主に主張している意見との事でした。2部活は仮に生協が出来たあかつきに経済的に成り立たないと主張しました。まして「東大生協」で働いている人の意見であれば到底2部だけでは成り立たない事を知っていた訳です。正にセクト的分断ではない事は明白でした。2部活は連日ピラ入れを行い、この分断を大衆的に暴露しました。民青系自治会はこれ以降生協設立運動を口にしませんでした。

嶺井妙美さんはその先頭にたっていました。嶺井さんはこうして非合理的な主張には極めて厳しい方でした。沖繩に帰郷して自ら古本の店を営み、勉強塾の経営や保育園のなど仕事と活動を両立するセクスはすでにこの頃から強く持つていたのだと思います。こんなエピソードもありません。嶺井さんのバイトは清掃員、自らアジピラを巻き、それを回収し教室を清掃する。実に微笑ましくもある事でした。無駄をはぶき、それで少しの糧をえる。この背景には大学職員も含め多くの人たちから愛される人であったからとも思います。

嶺井さんが存命であったなら、辺野古の抗議の先頭にたち、合わせてテントの脇でパン等を仕入、販売しているだろうと思うのです。(闘争の中に事業経営)

嶺井妙美さんは大げさに云えば深いところで実業の感覚を持ち、活動を行う沖繩人だったのではないのでしょうか。沖繩解放の旗なびくところ嶺井妙美さんは生きています。

2016/4/12

小坂 誠治

前略

「嶺井さん」という姓は口にはしていただけれど、「妙美」は知りませんでした。

確か「妙」の字は何度か目にしたことはありましたが(私が読めなかつただけなのかも知れませんが)、思い出すとあの独特なアラビア風の文字、私では読読不可能な難解な文字、この文字によって書かれたピラの原稿を私はある女性の通訳を介してガリ版で作ったことが何度かあります。レイアウトの指示を受け、完成するまで帰ることが出来ません。「やるのー！」

嶺井さんのバイトは清掃員、自らアジピラを巻き、それを回収し教室を清掃する。実に微笑ましくもある事でした。無駄をはぶき、それで少しの糧をえる。この背景には大学職員も含め多くの人たちから愛される人であったからとも思います。

本場に強い人でした。

何が入っているのか知りませんが、常に大きく膨らんだバックを持ち、力強く歩いていく嶺井さんでした。沖繩に帰り、原点を見つけたのでしよう、彼女の見た「端初」そして「決意」、「宿命の島」といわれる沖繩から「人の国」を想い、満天の星を見上げたのでしようね。命日12月10日、不思議なようですが感じてしまう日付です。嶺井妙美さん安らかに！合掌。

H・Y

嶺井さんという生き方

嶺井さんが沖繩の出身だということとは知っていたが、それ以外のことはほとんど知らない。彼女は自分のことは話さなかつたし、私たちも聞かなかつた。それなのに私は彼女が本能的に理解できた。

「この人は、自分に厳しい生き方をしている人だな」。風貌もある。沖繩人らしい骨格のがっしりした逞しい女性だった。その彼女が時折浮かべる、はにかんだような笑顔が印象に残っている。

しかし、いま思い返しても不思議なのは、あの頃の暗い情熱とでもいうべき熱気は何だったのか。神田にある大学

が建て替えのため、私たちは近くにある高校の古びた校舎に通った。廊下も階段も暗かった。その暗い階段の踊り場に机と椅子を置いて、大学生協設立の署名を学生たちに呼びかけた。反応は鈍かった。怠惰と無力感から、さぼることもしばしばあった。そんな時でも嶺井さんは、一人黙々と机を運び椅子を並べた。

が建て替えのため、私たちは

近くにある高校の古びた校舎に通った。廊下も階段も暗かった。その暗い階段の踊り場に机と椅子を置いて、大学生協設立の署名を学生たちに呼びかけた。反応は鈍かった。怠惰と無力感から、さぼることもしばしばあった。そんな時でも嶺井さんは、一人黙々と机を運び椅子を並べた。

「貴女たちはいいの、でも私はやる」。彼女は断固としてひるまなかつた。そんな彼女の姿は怠け者の私たちを叱咤し、励ました。神田の交差点の角にあつた旧救世軍のビルの地下が、私たちのサークルの部屋だった。

数年後、私は故郷の鳥取に帰り、自給自足の生活を目指した。昔ながらの一年間が無駄なく循環する、農業を基本とする運動を村の仲間数人と始めた。二年で挫折し、私は勤めに出て結婚した。田舎に卒業証書が送られてきた。休学も含め結局、専修大学に九年間在籍したことになる。

嶺井さんが沖繩に帰って頑張っていることは、米山〇〇氏から聞いていた。その米山氏から「嶺井さんが亡くなった」という知らせが来た。懐かしい思い出とともに、彼女の安らかな休息を祈りたい。

K・D専大II部文学研究会

バイクで日本列島の旅

2015年12月15日

関根 浩

ごめんない。わたしは不義理している。ウチナーの友だちから写メが送られてきた。12月10日嶺井妙美三回忌、及び妙美像除幕式を無事に終えましたとのこと。

「嶺井妙美」1949〜2013

沖繩に生を受けた妙美は学生時代を東京で送り社会運動に目覚めた。沖繩日雇労働組合を結成し、ホームレス支援を始め生涯を地元沖繩に根ざした活動をした。このミニチュメントは彫刻家金城実の妻初〇さんの呼びかけにより実現した。2015年12、10、制作金城実と読める。

実は嶺井さんの亡くなったことを知ったのは今年の春である。もう四半世紀前になるだろうが、バイクで日本を旅していた頃沖繩で所持金が底をつき泊まる所も無くなつた。その時、沖日労(沖繩日雇労働組合)の事務所に居候させてくれたのが嶺井さんである。当時沖日労のコアメンバーは皆、活動名を使っていた。

戸籍名が「嶺井」だと知ったのはずつと後になってからである。ファーストネームが「妙美」だと今初めて知った。怖いもの知らずのイケイケゴーゴーの20代前半、私はある大チョンボで組合に大迷惑を掛けてしまった。嶺井さんの説教を正座して聞いた。「関根さん、金輪際2度としないと誓うか、沖繩を出て行くか、どちらかを選びなさい」と。いつだったか、対職安団体交渉の時、職安のK課長(反基地闘争集会で見掛けでたから市職労の幹部かなんかだったと思う)が日雇労働者をバカにした態度をとった。

もしかしたらルンプロ発言をしたのかも知れない。その時、嶺井さんが激昂して凄まじい勢いで糾弾した。後で何故自分たちが差別された時、直ちに反撃しないのか、おとなしくしてちゃダメなんだと怒られた。

宮平昭栄

アルコール依存症だったと思われる宮平正栄委員長の酒を何度取り上げたことか。あ

の世で宮平さんはまた嶺井さん、「この辺でやめておきなさいネ」と言われて取り上げられたりしてゐるのだからか……。厳しくて優しい嶺井さん、嶺井さんのお蔭で何人のホームレスの人たちが、生活保護を勝ち取れたのだから。

わたしは不義理している。もう、10年位ウチナーを訪れていない。嶺井さんに「エイサー海人」を見せればよかつたなあ……

金城実さんありがとう

今回、金城実さんに嶺井妙子象を製作してもらつて本当に良かったと思う。嶺井さんの雰囲気出ている。ご冥福をお祈りします。 合掌

母が叫ぶ「安倍を許さない！」と

佐次田 敬子

〈9条改憲阻止〉

一人の憲法学者が抹殺された。小澤初恵は松井やよりの姓である。戦争の名を借りて、天皇は多くの国民だけでなく、アジアと呼ばれる地域

において犯罪を犯した。松井やよりは法で天皇を裁いた。その姓小澤初恵は東海大学で現代社会学を教え、大学入試作問委員でもあった。安倍は憲法を変えて戦争のできる国にするために憲法を教えない教育を推進し、文部省を通じて現代社会学から憲法学を消す。

松井やよりに続く、小澤初恵は「反核護憲」をかかげた東京山手教会牧師平山照次・秋子夫妻の子と孫、イエス・キリストの伝道者として世に知られる千人会堂の創設者。戦争は神に喜ばれない！ その事のゆえに「反核護憲」今、まさに日本は戦争を認める国にしようとする「国家」愛国主義者の養成に走っている。その「安倍」に殺された小澤初恵！ さんにも様を付けずに書いているが許してもらえらると思う。1日24時間、産まれてきた人々に与えられる時と命。今や日本は又もや戦争のできる国にしようとする自由民主党と公明党。政治が国民を戦争に導く時、国民は政治を変えなければならぬ。憲法は国民の為に制定された。なぜ！「安倍」は戦争をしたがるか？ 私の心は安倍にすぎたにされる。 頭と心と身体、全身が怒りに満ちた。

沖繩の海を汚すな

小泉と安倍は日本をゆるがした。納税者たちは自分を見失う程怒りに満ちている。国会前で、防衛庁前で、沖縄で、普天間で、ゴザで、辺野古で、名護で、与那国で石垣で宮古で、もちろん横田でも、米軍に対して！ オバマへの不信感はこのるばかりだ！ そして高江でも！ 子供も大人も老人も「皆」この国がどうなるのか国政に対して怒っている。憲法は国民を開放する為の基本的人権そのもの。

天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずという精神教育の理念である。日本人として、神に造られたと言ふ人類として守るべきまじり事である。「殺すな」という大命令に私たちは従うべきである。神が人はその父母を離れて妻と一体となる。その営みの中で人には住いとなる居場所がある。この列島、日本なる国境内の国土に産まれた。その生き長らえる時の流れの中ですべての人に「生きる」目的が与えられていると神は云う。神は人に思いを起させ、かつ実現に至らせるといふ。小澤初恵！ 彼女は殺された。「生かさなかつた」憲法9条改変が始まった。その

の改変の為に憲法学者「小澤初恵」は安倍に殺された。その証言する母！ 憲法を教える教授が殺されたら、日本はどうなる？ 知っている必要がある。日本の教育、食の為に働く人々は「自分」を強めて働く。働く人々はその能力に応じて働く。彼女は、ささやかな幸わせの日々を東海大学で失った。叫ばなくてもいいはずの言葉「アベは総理をやめろ」と国民は叫び、憲法改変を許さないと、日々声をあげて心で叫ぶ。

自民と公明は恥を知れ！

自民と公明は日本人の心を失望のどん底に突き落とし。彼らはその事を知らない。なぜ彼らはそれを知らないのか？ 脳が無いからだ。赤ちゃんのまま、おおきくなつて他を思いやることもなく、自分が今、何をしているのか知らないという恐ろしい状態である。聖書の中でキリストは祈つた「彼らは何をされているのか知らないのだから、彼らを許して下さい」と。人は許されて生きる。殺したくなる程の気持ちになる時、殺してはならないと思ふ。失うものが何も無い状態になれば、悲しみや苦しみが解放されるのでしょうか？

罪を犯した人は、あなたの罪は許されたと言われる時その喜びの度合いを知っている。罪とは何か罪悪感、罪を犯した人に起こる罪意識。この世は地獄と考れば悲しみも苦しみも起らず、唯、生きるだけ、なげかわしい現実。選管も信用できない。それでも日本で生きなければならぬのか？ 私は天国へ亡命したい！ なんだらう？

アジアの人々とともに

（沖繩・ウチオンチューをまもれ・アジアの人々と共に！）

国会つて！ 日本国民の私とあなたが今日まで、「どう生きて来たか」等はどうでも良くてあのアベが考える事が現実化してゆく、その後には国民は「決まった事」だからと言われて自分にむち打ち働き、納税し、軍事費と化しても誰一人反対できない「戦争のできる国」の奴隷となつてしまふのです。70年前と同じ状態になつてしまふ事に気が付かないまま、あなたの税金が人殺しに使われるの知らず、銃を買つて使う警視庁、自衛隊、安全、防衛と言う言葉にだまされる国民、なんてあわれな貧しい国民でしょう。私は沖繩で生まれ、沖繩で育ち、東京で子育てをし、64

才になるまでこの国の政策をなげき、貧乏人（ひんすうむん）ぬ（ぬうわかいが）と言う沖繩語に苦しめられてきました。そして今、貧しい人々は幸わいである彼らは私と共に国を受け継ぐであろうと言うイエス・キリストの言葉でなぐさめられるのです。本当に貧しさに耐え、そして死ぬその日までこの国の政策に打ちのめされて生きてゆくのかと思うとむなしくなるばかりです。今日一日いくらのお金で生活するか？ という時限の低い現状を思つて、あの巨大な東海大で起こつた、小澤初恵氏殺人事件、憲法改悪のカギをにぎるアベ政権が来年度の国会議員選挙で降落する事を願うのみです。この文章を読んで下さるすべての有権者の皆さん、政治家の政策にまどわされる事のない「知識」を見につけてすべての国民が平和にすこせる国造りの為にアベの政治を終わらせる為の選挙にしましょう。そして新たな軍事基地を造らせない為の沖繩の県知事を支え、そして美しい沖繩の島々をそのまま残す為の運動に参加して下さい。心から国民の皆さんにお願い致します。

2016年3月8日

※小見出しは編集子

ブント・その経験の「断面V

羽山 太郎

以下のA B...Gまでの文章は、1月22日京都での懇談会へのレジメ2月3日の懇談と友人への手紙である。昔話の数々である。

A 誰れが暴力を持ち込んだのか

B 右翼日和見のビン攻撃論
中央権力闘争から日帝軍事外交路線の粉碎へ
日比谷から六本木へ！の粉碎

C 武装闘争の敗北・『日本農業の復権』

D 超主観的第二次ブントのフラクションまたは分派

E たぶん「マルクス主義」では人々の団結はかちとれない

F 「60年安保闘争」の最大の功績

公認マルクス主義の崩壊
そして「マルクス主義の」互壊

G 「直感と思いつきとひらめき」そして行動ありき

ブントその経験の「断面V

A 誰れが暴力を持ち込んだのか

第二次共産主義者同盟・ブントの闇撃ち・問答無用・恐怖政治の数々
1966年9月 共産主義者同盟第6回大会
1967年2月7日 佐藤秋雄を拉致監禁事件、早稲田大学学生花園紀男他2名
1968年3月 望月彰を拉致監禁事件、田宮高麿他数名

1968年3月 岩田弘自宅破壊住居侵入と岩田弘を暴行、田宮高麿他数名

1969年7月6日 未明 右田昌人他数10名
塩見孝也・田宮高麿・堂山道生・花園紀男・高原浩之他数10名が集団暴行、右田昌人・斉藤芳雄・道場公基など数名が逮捕、右田昌人は以来、警察病院にて「破防法」求令状逮捕、以後「4・28闘争煽動容疑破防法」被告となる。

1971年12月 倉田豊寛、神田神保町路上にて闇撃ち、頭ガイ骨陥没、重傷、今日に至るも言語障害、半身不随の障害あり身体不自由者となる。戦旗（日向派）のテロ専用のRG（○○○○）によるものである。

他多数の「内ゲバ」がブント諸セクト間で繰り返された。この「内ゲバ」こそは、「マルクス主義」の失墜を刻印した。

共産主義者同盟・第二次ブントはその当初より、塩見・田宮など非論理主義・非科学主義の問答無用主義的体質を

もっていた。そして、それらを『非マルクス主義戦線』派・いわゆる「7回大会派ブント」は、許容していたと言わなければならない。

この非理論・非科学主義こそ塩見孝也を典型として、それを受け継ぐとする日向翔に至るのである。

共産主義者同盟・第二次ブント（私を含めて）は、決して人々に寄り添うとする前衛（毛沢東的には人民に奉仕する。）ではなかった。1人前衛、オレこそ前衛つまり、農民も、労働者も、地域や職場や工場労働者は眼中（頭）になかったのだ。だからこそ、しまいに「資本主義批判」なる単語が党派性となった

第二ブントとは、あくまでも、かかる意味でガキ学同であり、オレのみが唯一絶対と一知半解な実証・実体なき書籍の受け売りに終止したのである。

である。共産主義とは何か、共産主義運動とは何か、未だ理解せず「資本主義批判」と単語を無内容にさげふ。

このような人間には、反省・総括をいう言語の意味すら理解できない。

アイヌ、沖繩の人々に寄り添い三里塚はあくまでも農民と寄り添うこと、このことは、工場労働者と言わず、あらゆる形態・職種で働く生きた人間（賃労働者）に寄り添うことである。

私は、1970年代中期より約40年弱の年数を日雇い労働を天職として日々、肉体労働に明け暮れてきた。上下水道、河川敷・護岸工事、鴨川では製氷庫建設や港灣、病院や学校や中高層ビル建設など非職人・土工であればこそ、多種多様な仕事に従事できた。（土工は立派な職人である！とは中村光男さんの主張である）

この労働現場では、何よりもチームワーク、お互いを気づかうことなしには、安全は保てない。土木・建築現場は、重大事故、ケガとトナリ合せだ。そこでは、お互い寄り添うことなしには作業はすすまないものである。

政治組織的にあるいは運動論的に寄り添うとは若干これら土木・建築とは異なるであろう。だがしかし、根本にお

いて、人が人を信頼し合うこと。同じ立場（労働）で危険とトナリ合せで働く、闘うことは同じである。この同等、対等こそが三里塚農民と一緒にスクラムを組むのであり、アイヌ・沖繩の人々の声も私の耳にとどくのである。少なくとも私は、再び3たび抑圧者になるまえとする気持ちである。

もし、私が入間的に解放されるのであれば、それは、アイヌ、沖繩の人々と共にである。農民が農業で安心して喰べていけるときである。なによりも、労働者が自らの労働を自ら評価できるときである。

これこそが安藤昌益というころの「直耕直織」である。天皇も武士も余分なものは一切いらぬとする安藤昌益の思いこそ甦らせるべきである。とりわけ、伏わぬ民、白河、勿来以北の人々にとつて、安藤昌益の思想をいまによみがえらせること、これこそ、共生・共同の今日的言語と運動である。

共産主義者同盟がよみがえるとするならば、すべからく思い上がったガキ学同の全面否定のうえに自らの諸行為を哲学（科学）することによってのみである。

私は、数ヶ月前「共産主義運動年誌」16号2015年8

月発行に「愛情なきところに連帯や団結はない」と書いた。

アイヌの歴史を沖縄の民衆史を理解するとき、アイヌに、沖縄民衆に敬意を、尊敬を、つまり愛情をもって寄り添うのである。「プロ独でつなぐ」「独立せよ!」と上から目線やその歴史を否定することは、敵につつまなければならぬ。

哲学なきところに「反省も総括」もあり得ず「資本主義批判」なる言語明瞭意味不明なことをスローガン化した。こうして跳び超えのスローガンをもてあそぶ他はなくなるのである。

B 右翼日和見のピン攻撃論
—中央権力闘争から軍事外交路線へ—

68年10・21防衛庁攻撃闘争

「中央権力闘争・霞ヶ関占拠闘争」としての日比谷野外音楽堂から急拠、六本木は防衛庁攻撃闘争にかわる。スローガンは「軍事外交路線粉砕! 防衛庁闘争へ!」である。

立川米軍基地に搬入される石油タンクローリ車輛を新宿貨物車輛基地と中央線新宿駅通過を阻止しようとする市民は圧倒的多数を占めた。中

核、M・L、第4インターや社青同も、プリントでは荒袋介や三多摩地区反戦などである。

こうした、市民とセクトの新宿駅頭闘争方針は日増に強化され多数を占めるにいたつた。ここにプリント中央(政治局)の動揺とピンの投テキ方針が提案される。学対中心の、学対が圧倒的政治力を有する、わが政治局は、かろうじて、「政治局決定」は見お

くられた。こうして、東京地区反戦青年委員会・会議は紛糾をつづけた。

「火エンピン投テキ」を主張する、田宮、上野、森、久保田、原田、藤本などは自から六本木にすら来る勇氣もなく、誰れかによらせようとす

るものであった。しかも、公然と論争する始末である。会議という会議で誰れかまわす

大声で「火エンピン」「火エンピン」と。

被弾圧・被逮捕時は誰れがどんな責任をとるのかさえない。わが共産主義者同盟において、しかも、自らデモにさえ参加する意志もなく、救援さえ担う意志もなく

なんと日和見のことか、新宿に対抗する手段は火エンピンである。人がケガしようが獄中にならぬが、労働者がクビにならぬが、しつたことではない。これが旭凡太郎の「方針は正しい」なる精神である。この程度の男が、わが「共産主義者同盟の政治局員」であった。わが共産主義者同盟の水準が解かるというものである。

私は、この「10・21防衛闘争」において求令状逮捕(事後逮捕)から1980年9月(丸12年間)まで、非公然活動に明け暮れた。1968年10月21日の公然たる街頭闘争のよびかけから獄中闘争を経て、出獄後の分派形成・武装闘争と被逮捕出獄と小宇宙空間の生活を10数年間つづけたことになる。

1980年9月アイヌモシリはノッカマップを皮切りに、毎月のように沖縄・琉球とアイヌモシリを訪ねた。そのあい間をぬうように、三里塚や芝山、そして被差別解放闘争を担う友人たちを訪ね歩いた。

そのような意味で、私が共産主義に、共産主義運動に目ざめたのは、1980年9月以降と言つて良い。1960年から1975・6年までを「プリント」とし、1980年9月以降を『日本農業の復

権』とすることが出来る。前衛なり、党なり、あるいは階級闘争なりの言語の意味するところは「プリント」(1980年9月)から大中に書き改められなければならない。その一つに『日本農業の復権』がある。

「人民に奉仕するとは何か」と中国訪問時(1984年)チョウコウザン先生に問うた。「人民とは君のこと私のこと」と実に単純明解に答えられた。以来、私は、「人々に寄りそう!」を胆に銘じて生きていく。宮澤賢治ほどではないが、「誰れに、どのよう」に寄り添うことができるか「定かではない。それでも

C 武装闘争の敗北・「日本農業の復権」
一、武装闘争の敗北
60年安保―日韓からベトナム反戦へ!

II 共産主義運動と党建設の区別と分離、または、「一箇二重の」敗北―日共、革共同との対抗は、結局同じ穴のムジナとしての敗北
1972年9月左派1号75年一斉被逮捕

III 蜂起派分裂としての敗北、したがって『蜂起左派』の解体・「プロ通派」として

の再出発

一、再出発の原点
「革命とは」政治革命であろうと社会変革としての社会革命であろうと「支配階級の支配しつづける条件の低下・被支配階級「階級」としての自覚と自らを「生産者・多数者」としての誇りの満開としての自らを支配階級たらしめること。

私にとって、この原点とは「人々に寄り添う」ということ、何時でも何処でも「人々に寄りそう」ということ、人々とともに歩むということ、人々に学ぶということ。

この「人々に寄り添う」とこそ1980年9月アイヌとの出会いであり、10月11日の沖縄行きであり被差別部落民大森昌也との再会である。加えて1983年の3月8日三里塚芝山連合空港反対同盟の分裂・180戸熱田派対18戸の第一公園派への農民の分裂

この分裂を農民の分裂、農民運動の分裂と捉え、「三里塚に緑の大地を! 労働者市民の会」を起ち上げた。

当時、唯一、我々のみが正面から農民運動と規定、農民支援を打ち出した。

流であり、主流でなければならなかった。そのような時そのような時代に、熱田派でさえ批判と批判、批難の中、唯一、只一人「緑の大地」の旗を挙げつづけた。

この旗を声高にさげんた、さげんている斎藤信明、故人となつた知念成光である。人々に寄りそうとは、「マルクス・レーニン主義」を説教することでも、農民を労働者の尻尾につかせることでもない。学ぶことである!!!

何度でも何度でも繰り返しますが、1987年海邦国体を迎えるにあたり、天皇訪沖阻止をかかげた。そして、沖縄日雇労働組合を結成した。

だがしかし、この時点(「行動綱領」)でも、またはや街頭闘争主義が頭をもたげ、多くの労働者同盟を脱盟させた。夜学連結成準備会よびかけ文「三角定規」の想い、1980年9月アイヌと出会つたときの想い、そして「3・8三里塚芝山の農民同盟」の分裂に対する私の態度は忘却された。そして、「沖縄反天皇制街頭闘争へ!」と。

『プロレタリア通信』は、この時点での発足と同時に解体の危機にあつた。つまり、私自身の無自覚な精神の危機にあつたということ。たしかに、あの熱い夏、海

邦国体は、国体護持・国民体
育祭最後の地、沖繩でおこな
われた。あの夏、私ともう1
人の仲間は、沖日労の自動車
運転をかわるがわる行った。
ちょうど、この時期、関西・
大阪と京都からも沖日労との
連帯行動に参加した同志たち
がいた。

私は、このような闘争（東
京でも沖繩でも反天皇闘争）
を断行行へし！ と！！

しかし、この方針は、196
0年代末から70年代にかけて
自壊していったあの無夢の再
現に他ならなかったたのであ
る。『プロレタリア通信』か
ら労働者脱盟をみつつも決定
的に踏みとどめたものこそ、
アイヌであり、沖繩であり、
大森昌也を始めとするかつて
の仲間たちの地をほう、血を
はくような生きざまである。
人々の日常に寄り添わずして
何が革命かと。この思いは、
かつて、20才そこそこの時、
長姉に言われた言葉である。

私は、20才そこそこの時
のサークルやら自治会やらのチ
ラシの類いを必ず実家につ
ていた。たまたま、帰省した
おり長姉に、「オマイはなぜ
オレの家に送らないのか」と
スイカされた。そこで「送っ
てもわからないだろうから」
と！

姉さんは烈火のごとく怒っ
た。「オレにわからないこと

を書いてどうするんだ、わか
らないだろうから送らない、
ヨマせない。それで世直しは
できるのか」と、シカラレ
た。以来今日に到るも親戚中
『プリント』『プロレタリア通
信』『日本農業の復権』はる
かなるかくめいなどなど、
兄とオイ・メイたちには必ず
送付している。

一、三無主義批判

三無主義とは、無反省、無
総括、無責任ということ。三
無主義者に共通しているの
は、何時・何処で、誰れが、
誰れを、何が、何を、と言っ
た客体と主体の人間と場所
と時間が明示されないこと。
時空の無い「論」であること。
「論」は何処までいって
も「論」であつて、妄言・妄
想・空想の類いである、つい
最近では、主体なき「世界革
命論」を展開する御人が
現われた。

さて、私の経験上からこの
三無主義者について、

①1967年2月2日、明
大学費闘争を巡って、当時の
学対部長たる一向健こと塩見
孝也は、2月13日には箱根を
越えて関西プリントに帰った！
と。『赤軍始末記』に塩見孝
也自身が書いた。

②2つ目は、1968年の
3月7日回大会は「大勝利・関
西プリントの全面ヘゲモニーの

確立」と。旭凡太郎こと〇〇〇
の言である。文言としては、
1999年10月1日『プロレ
タリア通信』29号にそのこと
を示している。

③第3に、1968年10
月21日の防衛庁斗争は、火
エンピンを使うべきであつ
たと主張していること、塩
見も〇〇もである。④第4
に、1969年7月6日未明
の「赤軍派」の一方的な仲間
への集団暴行事件の「ヤムを
得なかつた」「仕方ナカツタ」
なる「反省」「総括」である。

これも『プロレタリア通』29
号によれば「プリントの分裂は
国家権力を巡る方針上の
……」と。ナント無責任な尻理
クツか。への役に立たない無
責任な言辭か。君は何処で何
をしていたのか。支持はした
が現場になかつたのみでは
ないか。塩見孝也に1997
年にさえそうナジラレタでは
ないか？ 〇〇〇〇君よ！
塩見から見ても〇〇君は無責
任な男のようだ。

旭凡太郎こと〇〇〇〇の文
章には、「論」もまともとは
言えないが、「総括」なる文
章も何時・何処で、誰れが何
を！ が全くない。時間も場
所も人間も見えない文章を総
括とは言わない。主体がない
以上客体をも映し出すことは
出来ない。で、ある以上総括
とは言えない。主体が無い以

上、反省のしようもなかる
う。故に、これこそが三無主
義の典型である。
口を開けばプリント再建6回
大会からの政治局員・プリント
の幹部であつたと豪語する。

この豪語する割には、どん
な自己主張しどんな闘いを組
織しどんな運動を組織したの
か、そしてその主張・組織運
動はどうなつたのか。自らの
君自身・政治局員として当時
どう反省し総括してきたの
か。

または無総括・無責任のま
まのように乗り移つてきた
のか。乗り移りを事としてき
たならそれも良からう。なら
ば、その事をもつらびやかに
する責任はあろうと言ふもの
ではないか。旭凡太郎こと〇
〇君よ！
私は、最早我々の世代がか
つてのプリントの栄光を語る資
質も資格もないと考えてい
る。

何故なら、いわゆる国家な
るものと遠くに居る者、遠け
れば遠いほど左、左翼、また
は極左と言われた時を経て、
今や「自民党・公明党」批判
さえ左、左翼と自称し呼ばれ
る時代である。まして生産者
としての多数派たる労働者や
農民は、海外侵略の先兵の役
割を荷わされていく。新しい
時代には新しい皮も、新しい
水も必要である。

新しき者たちを生み育て
ます程度の私であり我々であ
る。現在にいたるかかつての自
己の自己批判としての196
0年代から現在である。

D 超主観的第二次プリントの
フラクションまたは分派につ
いて（1月22日京都レジメ）

1964年 プントマ
ルクス主義戦線派、
1964年 プントマ
ルクス・レーニン派M・L
派
1965年3月 統一社学
同結成・諸独立派とM・L派
の一部
1965年3月 東京統一
社学同結成・諸独立派とM・
Lの一部
1965年4月 プント再
建準備会
関西地方委「烽火」
と東京統一社学同・東京プ
ント・先駆社・「先駆」発行
1966年4月 統一共産
主義者同盟「先駆」は196
6年6月 統一共産同大会
『われわれの対立』発行
1966年9月 共産主義
者同盟再建6回大会IIいわゆ
る第二次プリントII第一次プ
ントは5回大会後互解
1966年12月 全学連再
建大会・いわゆる3派「三派
全学連」委員長 斉藤克彦

1966年12月 全学連再
建大会・いわゆる3派「三派
全学連」委員長 斉藤克彦

※第二次プリント、恐怖政
治、その年表
1967年「2月2日
明大授業料値上反対闘争妥
結」、中核派による党派斗争
の始り
①1967年「2月7日
花園紀男・荒他2名 佐藤秋
雄を拉致・東大駒場寮社研室
に監禁」・問答無用の暴力主
義の始まり
1967年「2月13日学
対部長塩見孝也2度目の関西
逃亡」
1968年1月末より恐怖
政治始まる。
①1968年2月末？ 望
月彰拉致・監禁
①1968年2月末？ 岩
田弘自宅破壊・襲撃・暴行の
限りを尽す。
①1968年3月 7回大
会・大分裂・プリントは互解に
むかう。旧マルクス主義戦線
派、大会2日目をポイコッ
ト。ここに第二次プリント・同
盟の大分裂と互解・解体は始
まる。

①1968年12月 8回大
会
①1969年7月6日未明
労働者を中心とする「学習
会」を塩見孝也他襲撃
①1969年8月 プント
9回大会
①1971年12月 倉田豊

①1968年12月 8回大
会
①1969年7月6日未明
労働者を中心とする「学習
会」を塩見孝也他襲撃
①1969年8月 プント
9回大会
①1971年12月 倉田豊

寛・神田神保町路上で日向戦旗より闘撃ち

1967年11月12日 「二度目の羽田闘争」後大量に関西地方委上京、特に、佐野茂樹、塩見孝也、田宮高磨は連動して行動、1967年暮

佐野茂樹より「23区内に大阪市立大卒の田宮を入れさせてくれ」と懇願される。

そこで1968年1月より中部地区委員会専従として田宮高磨を入れる。地区委員長は当時、日本教育新聞社労働者○○○を退職させ地区委員長とした。

第二次ブントの互解

1968年3月 7回大会での初日、暴力的発言を繰り返したのは誰か、何故旧マルクス主義戦線派は大会2日目欠席したのか、何故7回大会は分裂大会となったのか、分裂は正しかったのか。恐怖政治を煽動したのは誰か、その実行者は誰か。

1969年7月いわゆる「7・6事件」段階で、フラクシオン・分派は唯一『赤軍』派のみである。6月末に、「B・L」派は形成されたかもしれない。また、三多

摩地区委員会はフラクシオン・分派と言えたのかどうか。

1969年7月まで「さざぎ」派など存在しようがない。さざぎ個人は、政治力、組織力をまるで持たない。7回大会議案書を始め『戦旗』紙上で主要な論文を書きつけていたという限りでは一定の理論家ではありつづけた。

さらざ徳二は、『世界暴力革命論』なる単行本、『資本論点前』なる単行本を自家製とは見え出版、公然化させていた。だがしかし、だからと言って、フラクシオンなり分派(組織)を形成していたわけではない。学習会すら組織していない。そもそもさらざ徳二にそのような組織能力・政治力はない。

1968年3月 7回大会時、一定のフラクシオンのものとして村田、塩見、佐野の定期的な集りはあつたのではないか、ここに、佐野議長、村田学対部長が成立したのではないか、塩見の政治局員としての復活。この実現のため早大を中心とする学生の暴力的政治雰囲気があつたのではないか。

私の推測、臆測、以上ではない。旧マルクス主義戦線の多くは、「ゲバルトを構えるのを拒否」それが、最善策と

して7回大会の2日目の欠席であつたと。つまり、恐怖政治に恐怖政治の対置を拒否したということ。

1968年12月8回大会

塩見孝也著作『赤軍始末記』初版本では、私が獄中にあるにもかかわらず、「反塩見活動、反塩見の政治を張つた」と記述。

※① 私が塩見孝也を一切信用しないのは、1965年上京後すぐ関西に逃亡(佐藤、浦野、渥美は残る)

※② 1967年「明大授業料値上反対闘争終結」2月2日協定」後わずか10日で関西に逃亡、いづれも学対・学対部長政治局長がである。この2度の逃亡は、思想・哲学の欠落を意味し、単なる政治的屋、政治的投機主義、政治的ゴロツキに等しい。これが1967年2月13日(箱根越え)後の私の塩見孝也評価である。ゴロツキと同盟はできない。

1968年3月7回大会で塩見孝也は再び政治局員、一体この人事、一体この政治組織とは何か。第2次ブント7回大会政治局はクサリ切つた、ブルジョワ政治屋が指導部となつたことを意味した。

私は、1968年「4・28」も道交法被逮捕。6月アスパック被逮捕以降は独自行動をとるようになる。もちろん、東京反戦世話人のカタガキである。大衆闘争・街頭闘争での独自行動の提起と実行である。ブント政治局と塩見孝也は信用に値せず!!である。

だからと言って、私は、フラクシオンも、分派もつくっていない。なぜなら、私は東京地区反戦の世話人であり、関東地区の地区反戦会議は私が主宰し私が議長を務めたからである。したがって、初代の共産主義者青年同盟の議長は私である。

1969年5月末 巢鴨東京拘留所を出獄 この時点でのフラクシオン分派と思われるのは『赤軍』のみである。

※ 私は1967年2月2日直後から明治大学和泉校舎にオルグに入った。当時の学対垂水俊介に懇願されてのことである。2月7日頃、原宿の喫茶店に垂水と私と明大の学生・米山、池原征夫との話し合い、お店を出たところで、花園・荒に拉致される。理由は①マル戦か②中核か③青解か、と言うものである。花園を先頭に東大駒場社研に閉じこめられ、したたかに

殴られる。いかに「南部の労働者である」「太田地区反戦の世話人である」「羽山太郎である」と述べても、一切聞き入れず、やむを得ず、再建されたばかりの「共産主義者同盟書記長の水沢史郎に電話しろ!」「ブント本部戦旗社(湯島)に電話しろ!」と再三、再四怒鳴りつけた。こうして、花園紀男を始め早稲田のガキ共は三々五々勝手に姿を消した。

ガキ学同、ガキ学同と私が言うのは、こうした輩が「ブント・同盟」であつたからだ。旭凡太郎は、1989年頃、ブントの加盟書も社会学同の加盟書も書いたことがない。同盟費など払ったことがないと豪語していた。この早稲田の学生・旭凡太郎は全く似たようなガキである。

つまり、第二次ブント・同盟とはその程度、だから、塩見の自慢話、日向翔の自慢話に学生や生徒を中央委員会に平気で出席・動員する。動員したと。加盟書もなし、同盟費もなし、これでブント・同盟!。

彼らには、形式がない、形式がないと言うことは内容がないということだ。それこそへーゲルぐらいはキチツト読

め。私を拉致せよ! と命じたのは再建共産主義者同盟政治局員・学対部長の塩見孝也か、それとも塩見がオルグした、オルグしたと言う村田能則か。塩見が村田以外ではないであろう。

労働者の「労」の字も知らず、形式を内容の表現である程度の弁証法、知識ももたず、これが第二次ブントの政治局の実体であり、学対部長なるものの正体である。この程度の連中に革命(生命を革める)を語る資格があるのか。

1966年9月末に再建6回大会、そのわずか4ヶ月後そこで私を拉致する。早稲田大学の学生諸君とはどんな共産(共に生み育てる)主義者だったのか。

塩見の弟子こと、村田や花園、荒の共産主義とは、一体何だったのか。

たとえマルクス主義戦線派であろうと、革共同中核派であろうと社青同であろうと問答無用に暴力的にタクシーに乗せ、監禁して殴る、ケルをして良いはずがない。彼らからは、一度たりとも反省の弁を聞かない。これが2年後の「7・6闘打事件」(1969年)に引き継がれるのである。

問答無用に人を拉致監禁す

るような政治的雰囲気を守り温存させてきたのは誰か、どのような地方委員会か。

問答無用の闘打ちを内ゲバとは言わない。

このような政治的雰囲気、政治風土をつくり上げた地方委員会(関西)とは何か。政治文化と言つても良い。加盟書なし、会費なしを自慢するブント・同盟とは何か。

逃亡者を次から次へと温かく迎え入れる。政治文化、これが革命なり社会革命を志す人間集団だとすると、恐ろしく墮落した人間集団だと言わざるを得ない。

このようないい加減さが2年後の1969年の「7・6闘打ち事件」である。「7・6事件」とは疑いもなく闘撃である。彼らは、何らの決意もなく世界革命を他人に呼びかける。

町内会や町内会サークルでさえ、入会規約や規則ぐらひはある。まして、会費は当然と言ふべきである。関西地方委員会のすべて、大阪市立大学の共産主義者同盟員のすべてがそうだとはいわない。しかし、1966年9月以降、一貫して指導者であった！と自負する吾が、共産主義者同盟の指導者・旭凡太郎こと、○○○○君。この程度の

指導者が第二次ブントであったのは事実である。誰一人、只の一人の支持者なしに、なに故に政治局員と恥ずかしくもなく続けられたのか、不思議で仕方がない。

E たぶん「マルクス主義」では人々を団結させることはできない(友人への手紙)

○○さんへ

反代々木、全学連から「新左翼」なる呼称にせしめたのは1965年「反戦青年委員会」であり、1966年から「地区反戦青年委員」である。

これを提起し、これを主催主宰したのは、社会党青少年局長の高見佳司である。これを内部でささえたのは、今日、熱田でガンバル彼、加瀬勉であり、石黒忠であり、根岸である。樋口圭之助もその一人である。そして樋口圭之助は、いち早く、革労協に入る。この樋口を社青同から解放派へオルグしたのは○○○が尽力した。今もつてこの二人は、反○○で「意気統合」している。

とまれ、ブントは1966年から佐藤秋雄、望月彰がブント系地区反戦世話人である。故に、1968年2月山道生、田宮高鷹は社会党本部

社会文化会館で、高見圭司主宰の松崎、藤原、樋口、望月、佐藤、五辻、斎藤(インター)などの会議の席上に乱入し、望月彰を拉致した。この現場に旭凡太郎こと○○○もいたと、つい最近自ら告白した。

田宮、堂山に、7回大会直前「望月を拉致せよ！」と命じたのは塩見か村田かそれとも田宮、堂山の単独か、いづれにせよ！ 問答無用の拉致は、塩見が持ちこんだ非科学主義の思想である。無哲学的、無思想的、つまり、無理論家・非科学主義の成す術である。

塩見孝也他の無責任とはこのようなことと連続を指すのである。

無総括・無反省であるからこそ繰り返すのだ。○○さんへ

1967年2月7日、羽山太郎は花園紀男、荒袋介、他に原宿で拉致される。東大駒場社研室にて暴行受ける。明大和泉校舎にて、池原、米山(中島)をオルグしての帰りである。1967年2月13日塩見孝也関西に逃亡。1968年2月末、望月彰、社会文化会館で拉致→中大会館へ。2月末 岩田弘自宅襲撃、

暴行のかぎりをつくす。1969年7月6日未明襲撃、断じて内ゲバではない。突然の襲撃・暴行の数々である。

三書房「反戦青年委員会」高見圭司著 1971年12月 戦旗日向派 倉田豊寛闘撃

何故、新左翼が過激派、極左の呼称に変わったか、1980年代からは見向きもされなくなつたのか。私たち(とくにブント)は、自省・反省なくして過去を語れません。よろしいですか、○○さん。私たち、ブントは、革マル・中核・狭間を批判すれば済むものでは決してありません。

なぜ? なぜを問うことなしに、人々から信頼されることはありません。1月○日第3回総会議案書、いづれ公表します。非公開ですすめてきた都合上時間かかりましようが小冊子となるでしょう。「ブント、その2」も近日中には出版したく思っています。早くとも、7月には公開(小冊子)します。○○さん、いつもいつもごころうさま。1月22日、私の発言要旨は近いうちにあります。

60年反安保闘争の最大の功績―幾つかのしつもんへのこたえ―

① 前衛神話を崩壊せしめたこと

「公認のマルクス主義」「唯一・絶対無二の前衛」の崩壊、「科学を科学」すること

を人々の手に取り戻したこと

―故に、当時は「反代々木・全学連」と称された。

② 社会変革、世界革命の道程は幾つもの方法・手段であること。

③ 1960年前後は、キューバ、台湾、韓国でも時の権力・政権を打倒した。

④ 1960年後―1966年「新左翼」社労同の機関紙。1967年10月8日と11月12日の「二つの羽田闘争」後…過激派―そして1970年より過激派・極左暴力集団へ。

※ 最大の過ちは「マルクス主義の名において仲間に行・暴力」の限りをつくしたこと!!!

第2次ブントで言えば、①1967年2月7日 羽山こと、佐藤秋雄を問答無用で花園紀男、荒袋介は拉致、東大駒場社研室に監禁暴行。

②1968年2月 望月彰を社会文化会館にて拉致。中大会館に監禁・暴行の限りを尽す。田宮高鷹、山道生他が正しい」とする「マルク

自宅を襲撃。岩田弘に重傷を負わす。

④1968年3月のブント7回大会は恐怖政治の結果大分裂大会となる。

ブント解体の始まり。

⑤1969年7月6日未明塩見孝也、田宮高鷹、花園紀男、高原浩之、堂山道生、上野勝輝他が、明治大学和泉校舎での学習会に突入、さら

ぎ徳二、羽山太郎、垂水、杉田、道場他に棒をもつて殴打、暴行の限りを尽す。被害者である杉田玄白他数名は逮捕、警察署に留置される。

⑥1971年12月 戦旗派・弾、他に倉田豊寛は闘打ちされる。倉田豊寛は、瀕死の重傷。一命をとりとめるが今もつて半身不随、言語障害に苦しむ。

⑦1973年「連合赤軍」

「総括死」発見

以上はすべて「マルクス主義」の名の下に実行された。

いわゆる「新左翼」内の「内部向けの同志殺し」「仲間殺し」は、130数名に挙げ

る。その負傷者は、5000人を下らない。

これ等もすべて「マルクス主義」「社会革命」「世界革命」のために何の罪の意識もなく実行された。

人を生かすこと、人を活かすことではなく、「自分だけが正しい」とする「マルク

「ス」自身の考え方による。これが現在の、今日の「マルクス主義」なる諸セクトである。そして、この島国の日本列島の国内のみでも1000団体を越すであろう。1000団体を越す「マルクス主義」セクト・グループ、個人は存在するであろう。

実に嘆かわしい。哀・悲しむべき「マルクス主義」である。権力打倒や、社会変革の前に「仲間を打倒する」「仲間をヤツツケル！」(旭凡太郎の口グセ)これで人々の深く広がる連帯や団結は可能か？ その根本・思想・哲学上から問われなければならない。問答無用の暴力主義・闘撃主義、恐怖政治。この哲学の貧困こそが「新左翼・ブント」の実体であった。

※ブント結成(1958年12月)から57年間も経過したとすると、そしてそれが新左翼の源流とすると、私たちはトコトン負の遺産そのものを引き受け、そしてそれを払拭し乗り越え反省すること、その覚悟なしに「安倍打倒！」は決してない。人々に、仲間、愛情をそそぐ勇気である。人々にトコトン寄り添う決意覚悟である。人々を「ヤツツケル！ 打倒する！」なる「党内・党派斗争」は誤りである。つまり、決意も覚

悟もなく、自信もなく、先にウデの延長として棒や石コロを持った方が勝ちとする敗北主義。

F 「直感と思いつき」そして行動ありき！ 幾つかの質問への答え

困難に直面したとき、壁に突き当たったとき ※やりたいこと(課題)をやる。それは行動すること。例えば、19歳で上京、その日から住み込みで旋盤工見習として働く(2月10日)

「旗揚げる！」 現在のには「起業」する！ と！！ しかし、池田勇人「高度経済成長」とは未曾有の企業倒産・戦後最大の企業倒産、零細企業は産別合併と系列化と現金決済から小切手・手形へと、10日先付けが1ヶ月先ぎ付けへ。1ヶ月の手形は2ヶ月3ヶ月へ！ と。零細企業は、この合併や系列化にも乗れず、先付け小切手や手形では原材料を買うことも資金を支払うこともできず。

私の「旗揚げる」「起業」の夢は、1962年には潰れる。こうして、自治会活動にのみり込む。「一部二部差別反対！」や「三角定規の実現！」なるスローガンは、私の個人の思いではあるが夜間部学生の希いでもあった。

この私の「思いつき・直感」は、折しも日共武装闘争を闘った同級生の船越進や他幾人かに左翼とは、マルクスやレーニンについての手ほどきを受けた。私(1941年生)より、12〜3歳年上の経験者は教室での内田義彦、石渡貞男、山田盛太郎、小林良成や小林義男、内藤二郎、雪山慶正、長幸男、斉藤秋男、大島清、古在由重、伊東光晴、中村秀一郎、高橋七五三などなどの戦前・戦後の岩波書店発行日本史講座や経済史講座執筆陣の評論を逐一して読んだ。

私は、日本共産党に入党することなく、日本共産党の歴史を学内で教室で、その教授陣と同級生(といっても12〜3歳年上)から教わったのである。これは1961年から64年春先までつづく。この同級生は、大学3年生になると、こぞで、会計士や司法士の試験のため大学に通わなくなる。期末試験会場でたまに顔を合わせる程度、どうしても会いたいときは、彼らのアパート近くや勤務先近くでたわいもない世間話を楽しんだ。

私も1963〜64年は、新暴法反対、オリンピック反対、授業料値上反対、憲法公聴会反対、原潜寄港反対などで活動しだした。同時に「夜学連再建準備会」のチラシを

全国の大学に郵送した。関東近辺は、早稲田大学II政(田中光男)を始め、明治大学学苑会(伊波尚義)などと会合を重ね、日韓会談反対闘争などで足並をそろえたのである。

同時に、全国高等学校弁論大会(II部弁論部主催)各地方ブロック大会、九州から北海道、東北大会まで随行した。

◎資本主義的生産力発展とは、必ず小資本・企業と中小零細で働く労働者の犠牲の上にあると、自覚した。

池田勇人こそは、小資本と低賃金労働者を苦しめる張本人であると自覚した。これこそが、私を転向せしめ、社会変革へと駆り立てたものであった。ここに①I部II部差別撤廃や②三角定期の実現や③黒門祭の実行(飲酒の一斉禁止)など、自分の頭で考えた、というより「思いつき・直感」を行動に移したのである。

◎私の第2の転向・転機は「67年10・8羽田闘争」である。今日から考えれば全くアホである。共産主義者同盟南部地区委員会発行「赤軍」を1967年11月12月に1号・2号を発行した。こうして、この「武装闘争路線」は、1980年9月アイヌと出会うまで堅持したことになる。こ

の10数年間「武装闘争」に邁進する。 『赤軍』 1号2号の印刷・丁合など一切は吉田正司の協力の下に実行された。吉田正司とは生涯の友である。どんなにケンカしようとも友人である。この『赤軍』はしたがって『蜂起左派』なのである。

◎私の第3の転向・転機は1980年9月アイヌと出会ったからである。これは、被差別部落と部落解放同盟・栃木県連、大阪市淀川区加島支部、個人では西岡武、西岡智や大森昌也などなどである。指紋捺捺拒否者金文善、台湾独立の闘士、朱世紀などと1980年代に出会った。これらの出会いは、「台湾料理研究会」が多なる力を発揮した。自民党分裂・小沢一郎は「新自由主義者」であった。これに危機意識をもった私は「WTO反対！」を掲げて「農民連合」結成のため、鹿児島から北海道まで飛行機に乗り、全国を飛び回った。

◎沖日労は、1987年国鉄分割民営の年、バブル最盛期。「海邦国体」直前に結成した。

◎課題を勝手に設定し行動する。この私の信条はかつての民社党元委員長春日一幸の「理屈は貨車でついでく

る。先ず行動せよ！」が私の座右の銘である。

A. 戦後社会でのブントの役割 公認のイデオロギーの打破 結局、自ら唯一の前衛主義となる。

それが内ゲバとなる。 ◎闘撃の歴史の否定 セクトは裏方に、人々に寄りそうこと(人民に奉仕すること)、連帯すること、社会変革とは人々、人民の芸術である。

安倍打倒について B. 今日の新左翼または、ブントは反省(方針)すること。そこに「左翼・左派の統一」もある。

C. 私にとつて、困難や壁に突き当たった時どう乗り越えてきたか。それは、「直感と思いつき」を行動に現わし、実践してきたこと、それが「夜学連」であり、「地区反戦」であり、「武装闘争・赤軍」の発行であり、三里塚を緑の大地！ 農民運動と規定したと、そして、WTOに反対し農民連合を結成したと、沖縄日雇労働組合結成とその運動を支援しつづけてきた。この「直感と思いつき」こそ私のモチベーションである。

この「思いつき・直感」は、折しも日共武装闘争を闘った同級生の船越進や他幾人かに左翼とは、マルクスやレーニンについての手ほどきを受けた。私(1941年生)より、12〜3歳年上の経験者は教室での内田義彦、石渡貞男、山田盛太郎、小林良成や小林義男、内藤二郎、雪山慶正、長幸男、斉藤秋男、大島清、古在由重、伊東光晴、中村秀一郎、高橋七五三などなどの戦前・戦後の岩波書店発行日本史講座や経済史講座執筆陣の評論を逐一して読んだ。

私は、日本共産党に入党することなく、日本共産党の歴史を学内で教室で、その教授陣と同級生(といっても12〜3歳年上)から教わったのである。これは1961年から64年春先までつづく。この同級生は、大学3年生になると、こぞで、会計士や司法士の試験のため大学に通わなくなる。期末試験会場でたまに顔を合わせる程度、どうしても会いたいときは、彼らのアパート近くや勤務先近くでたわいもない世間話を楽しんだ。

私も1963〜64年は、新暴法反対、オリンピック反対、授業料値上反対、憲法公聴会反対、原潜寄港反対などで活動しだした。同時に「夜学連再建準備会」のチラシを

全国の大学に郵送した。関東近辺は、早稲田大学II政(田中光男)を始め、明治大学学苑会(伊波尚義)などと会合を重ね、日韓会談反対闘争などで足並をそろえたのである。

同時に、全国高等学校弁論大会(II部弁論部主催)各地方ブロック大会、九州から北海道、東北大会まで随行した。

◎資本主義的生産力発展とは、必ず小資本・企業と中小零細で働く労働者の犠牲の上にあると、自覚した。

池田勇人こそは、小資本と低賃金労働者を苦しめる張本人であると自覚した。これこそが、私を転向せしめ、社会変革へと駆り立てたものであった。ここに①I部II部差別撤廃や②三角定期の実現や③黒門祭の実行(飲酒の一斉禁止)など、自分の頭で考えた、というより「思いつき・直感」を行動に移したのである。

◎私の第2の転向・転機は「67年10・8羽田闘争」である。今日から考えれば全くアホである。共産主義者同盟南部地区委員会発行「赤軍」を1967年11月12月に1号・2号を発行した。こうして、この「武装闘争路線」は、1980年9月アイヌと出会うまで堅持したことになる。こ

第3回総会報告 I

一、共産主義者同盟プロレタリア通信編集委員会(以下「プロ通」と略す)は、本年1月早々同盟第3回総会を開催した。

一、同盟総会は、同盟結成前史I・II・IIIと同盟結成後の30年間経過I・II・IIIと総括・情勢・方針をそれぞれI・IIと人事、規約の確認を行った。

一、まず、ここでの報告は、方針に限定しておく。「プロ通」結成前史、経過・総括・情勢・方針他について『プロレタリア通信』紙上と我々の活動内容・行動で随時示されていくであろう。

一、政治方針
 なによりも自民・公明連立の安倍晋三暴走内閣批判・打倒斗争を中心とする行動方針である。

秘密保護法にはじまる「安保法制」の廃止を求めて「反戦平和」斗争をたたかうこと、安保法制反対とは、日米

帝国主義同盟解体・アジア共同体を展望することであり、沖縄辺野古への新基地建設を阻止することである。

いうまでもなく、沖縄・琉球孤の独自の、固有の歴史と文化の尊重なしに東アジアの政治的形成(連帯)はあり得ない。

環太平洋戦略的経済連携協定・TPPは従来の自由貿易の枠と深さにおいて根本的に異なるものであるが故に反対するのである。

今日12ヶ国内ですすめられているが、あまりにもそれぞれの国内の産業・労働者に打撃がありすぎるとして各国内国会承認手続きがスムーズに行くとはいえない。自・公安倍政権は議会・国会における多数派を良いことにこの秋までは国会承認を得ようとしている。

枠ということでは「知的財産」「政府調達」に至るまで、深さということでは罰則規定を持つということである。広

告文書さえ不当表示が認められれば、提訴の対象となるのである。衣食住・農水林畜にとどまらず、肥料飼料から医薬、保険金融医療を含むのである。そこでは教育も「弱肉強食・競争主義」にさらされるのである。資本の自由競争主義は、「規制緩和」の名の下で教育も医療も格差の一途をたどるのである。いわゆる

アベノミックス(①金融緩和、②公共投資・赤字国債の発行、③成長戦略)の失敗は、「規制緩和」成長戦略」というマヤカシ以外になくなってきている。その象徴こそがTPPなのである。

原発の再稼働と言いつつ、TPPと言いつつ、あるいは、安倍晋三言うところの「復興・復興」「一億総活躍」や稲田明美の「整備新幹線」の推進など、これらをもつてGDP600兆円を!と。

黒田東彦は2013年4月就任会見で「インフレ率2%」の経済成長を!これらは絵にかいたモチにすらならないとは、近代経済学者の大御所の伊東光晴先生の説であり、浜矩子の『アホノミックス』である。

近代経済学者を始め多くの評論家は最早、日本資本主義はあらゆる比表(資源、人口減、都市化し過ぎ、個人消費限界)から言って経済成長よ

り資本主義として持続可能性を追求せよ!と。したがって、国策(税金投入)としての原発や富士山に鉄砲玉(自衛隊なる軍隊)を撃ち込んだり、太平洋を汚すような軍事費拡大、米軍へのおもしろいやり子算(5千億円弱)をやめたが良いといっている。

一、政治組織路線

敵の圧倒的力に対して、我々の力はあまりにも微々たるものである。しかし、農水

林畜民と労働者と学生・市民が一つになるとき、たとえ「国家」であろうと、自・公安倍政権であろうと恐れることはない。

現に、2006年から「9条改憲阻止の会」は活動しており「伊達判決を生かす会」は、この50年間米軍立川基地拡張反対斗争の勝利とともに世代をこえて持続している。

北海道から沖縄まで米軍基地撤去・反対の声はこの60年間やむことはなかった。現在なおおとろえることなく声高くなって「反戦平和」のたたかいはつづくのである。

2011年「3・11」以降、脱・原発運動はその立地自治体や地域を超えて連帯の輪は広がりがつづけている。こうして「経済産業省前テント」は人々の手によって継続

し全世界に発信しつづけられている。脱・原発運動のひろばとなつて久しい。

一昨年からつづく、安倍晋三の暴走は、学生や生徒、お母さんやおじいさん、おばさんたちを東京は霞ヶ関や永田町・国会に足を運ばせた。

こうして、ママの会、シールズ、高校生の会、「反戦実行委員会」を形成せしめた。

この人々、人民のたたかいは「総がかり行動」なる諸団体の統一行動を共同斗争をつくり出したのである。

「プロ通」派は、かかる全国津々浦々からわき上る反戦、反原発のたたかいに参加するのである。

敵の圧倒的力、それは単に警察力・武力という意味のみではなく、新聞・雑誌・テレビ・教育、なによりも、資本の力によつても現場は押しつぶされようとしている。この資本とイデオロギーと武力に対して人々・人民の連帯・団結において対抗していくのである。

我々は自然権として生命・生きる権利・抵抗権・革命権をたてに敵資本と権力に立ちむかうのである。

我々の政治、我々の路線・連帯とは以上でも以下でもない。

万国の労働者(農水・人民)の団結万才!!!

報告 II

① マルクスアンドラジャリスム・「M・R研」研究会

② 「共産主義運動年誌」・「年誌」

③ 共産主義者協議会・無産者の政治新聞・「赤いプロレタリア」

「M・R研」は、中広く学習研究機関である。結成されて20数年になる。

「年誌」は、名は体を現すとおり共産主義者の理論活動と運動報告、運動や闘争者の反省や相互批評などの表現としての雑誌たるべき位置をもつ。

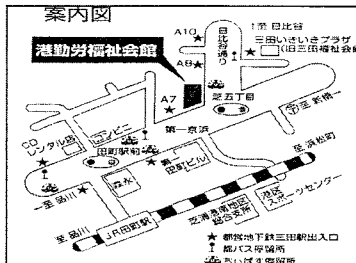
我々「プロント」・プロ通派は、これら「M・R研」や「年誌」を広く活動家人士に解放すると同時に、吾が、共産主義運動をひろめていくものである。そして、それらは『赤いプロレタリア』に結実していくものとするべく努力するのである。

労働者人民運動は、東ティモールの民族解放斗争に学び、キューバの先進的医療、

2016年
5月14日(土)

午後1時30分～5時00分(1時10分開場)
会場: **港勤労福祉会館1階第1洋室**

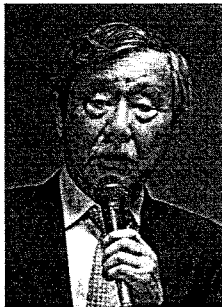
東京都港区芝5-18-2/電話:03-3455-6381
●最寄り駅: JR 田町駅三田口より徒歩5分
●都営地下鉄三田駅下車、A7出口を出てすぐ左隣



◇ビデオ学習会《731部隊の国家犯罪を裁く》
シリーズ
731部隊員の証言 / 第5回
講演 **近藤昭二**さん(ジャーナリスト)

資料代500円

今回のビデオ証言は、731の姉妹部隊といわれる榮1644部隊(中支那派遣軍防疫給水部)の第2科に所属した**田中辰三**さんで、1994年に取材したもの。戦争犯罪者の意識から部隊での活動を長らく秘匿していたが、長野県での731部隊展での盛り上がりから事実を語る決意をした。部隊建物の配置、マルタの搬入や逃走事件、人骨の送付などについて語り、寧波や洞庭湖の南への細菌攻撃、731部隊との共同作戦など、「奈良部隊」の存在を初めて明かし、関東軍の命令を裏づける貴重な証言をする。



《今も政府が認めない731部隊とは?》

日本軍中枢は国際法を無視して細菌戦を構想した。1936年、細菌戦部隊の関東軍防疫部を設け、ハルビン郊外の平房に大規模な施設を建設。1940年、同施設を本部とする「関東軍防疫給水部」が設けられ、翌年から731部隊と呼ばれた。731部隊では、細菌兵器の開発・製造のため、3千人を超える中国人・韓国人・ロシア人などが敗戦までに虐殺された。

細菌戦は、1940年から42年まで中国の浙江省や湖南省などで実施されペストやコレラを大流行させ少なくとも3万人を虐殺。44年以降は米軍に対しても細菌戦の発動を準備していた。

【講師紹介】

著書:『731部隊・細菌戦資料集成』(柏書房 2003)、『死の工場―隠蔽された731部隊』(セルダン・ハリス著、近藤昭二訳 柏書房 1999)ほか。731部隊に関する論文多数。

脚本: チェルノブイリ原子炉爆発事故前年に上映された日本の原発事故を取り上げた映画「生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言」(ATG配給、主演・倍賞美津子)の脚本執筆。

2016.4.7

主催: NPO法人 **731部隊・細菌戦資料センター**
(共同代表 近藤昭二・王選・松井英介)

Website: <http://www.anti731saikinsen.net/> ◆お問い合わせは一瀬法律事務所: 東京都港区西新橋1-21-5
Tel:03-3501-5558 Fax:03-3501-5565 / Email: info@ichinoselaw.com 担当元永(もとなが)

教育、農業に学び、なによりも韓国における労働組合運動を中軸とする民主主義運動や前衛的文化運動に学ばなければならぬ。
我々、ブント「プロ通」派は、労働者・農民はもとより、アイヌ・沖縄と何処まで

も寄り添うのでなければならぬ。そのことは同時に、共産主義運動、共産主義者協議会「赤プロ」となつて結実していくことでもある。
国際連帯とは、世界の被抑

り、たたかう労働者を始めとする人々に限りなく寄り添うことである。人々が社会変革を欲するとき、その先頭でたたかうのもまた共産主義者である。
我々の政治方針とは、「政治路線・政治組織路線」と

なつて「統一と団結」を求めていくのである。これこそが「人民に奉仕」することであり、「人々に寄り添う」ことなのである。
人民の中へ! 人民の中へ!

伊勢志摩サミット反対

「対テロ」戦争反対・敵戒態勢を許すな!
戦争と新自由主義を推進するサミット反対!

講演
5・8 「中東から見た世界の現在―サウジ、イランを中心に」
田原牧さん(『東京新聞』特報部)
5月8日(日)14時~17時
南部労政会館(JR大崎駅 北口徒歩3分)
資料代:500円

5・22 伊勢志摩サミット反対! **新宿デモ**

5月22日(日)12時半 新宿・柏木公園集合

(連絡先) 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5F 救護連絡センター 受付 電話法: 組対法に反対する共同行動
03-3591-1301 / 東京都港区西新橋1-21-8 9条改善阻止の会 受付 03-6206-1101 090-6481-6713 (松平)

**安倍政権は
辺野古新基地建設を断念しろ!**

4.23新宿デモ

4月23日(土) 14:00~新宿アルタ前でアピール開始
15:00デモ出発

主催: 辺野古への基地建設を許さない実行委員会
連絡先: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック TEL:090-3910-4140